

第3次白馬村教育大綱

令和8年3月

白 馬 村

第1章 はじめに

1 背景

人口減少や少子高齢化、国内外からの移住者等が増加する中、地域に住む誰もが健やかで心豊かに暮らすためには、将来を担う子どもたちへの教育や文化・スポーツ等の振興、村づくりの基盤となる人材育成のために、教育の果たすべき役割はこれまで以上に重要なものになっています。また、核家族の増加や地域でのつながりの希薄化、共働き家庭の増加、村民の多様性など、子どもと子育てを取り巻く環境の変化によって、家庭の子育てに対する負担や不安、孤立感が高まっており、子どもの健やかな育ちと子育てを、社会全体で支援していくことが必要になっています。

こうした中、2015年(平成27年)4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築が図られるとともに、村長と教育委員会の連携の強化が図られました。

この改正法の中で、地方公共団体の長は、地域の実情に応じて、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとされました。

本村においては、2015年(平成27年)7月に、本村の教育振興に関する基本的な目標及び基本方針について定めた「白馬村教育基本目標及び教育基本方針(2014年(平成26年)8月教育委員会策定)」をもって大綱として定めました。また計画期間満了となった2020年(令和2年)に「第2次白馬村教育大綱」として改訂し、村長部局と教育委員会が一体となって教育行政に取り組んできました。

この度、2025年度(令和7年度)末で「第2次白馬村教育大綱」の計画期間満了に伴って内容を更新し、「第3次白馬村教育大綱」(以下「本大綱」という。)として策定します。

2 大綱の位置づけ

この大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に基づき、総合教育会議において村長及び教育委員会が協議・調整し、村長が策定する大綱です。

また、本大綱は、白馬村総合計画を上位計画とし、教育基本法に基づく国の「第4期教育振興基本計画(2023年(令和5年)6月閣議決定)」及び「第4次長野県教育振興基本計画(2023年3月策定)」を参酌するとともに、本村の関連する諸計画との整合性を図っています。

3 総合計画との関係

白馬村第6次総合計画基本構想(2026年～2035年)では、目指す村の姿として「共に生き、豊かさを育む。 支え合いと幸せがめぐる -Best Living Village-」を実現するため、4つの基本目標を掲げ、これらの基本目標を達成するために各個別目標を設定し、各種施策や事務事業に取り組んでいます。

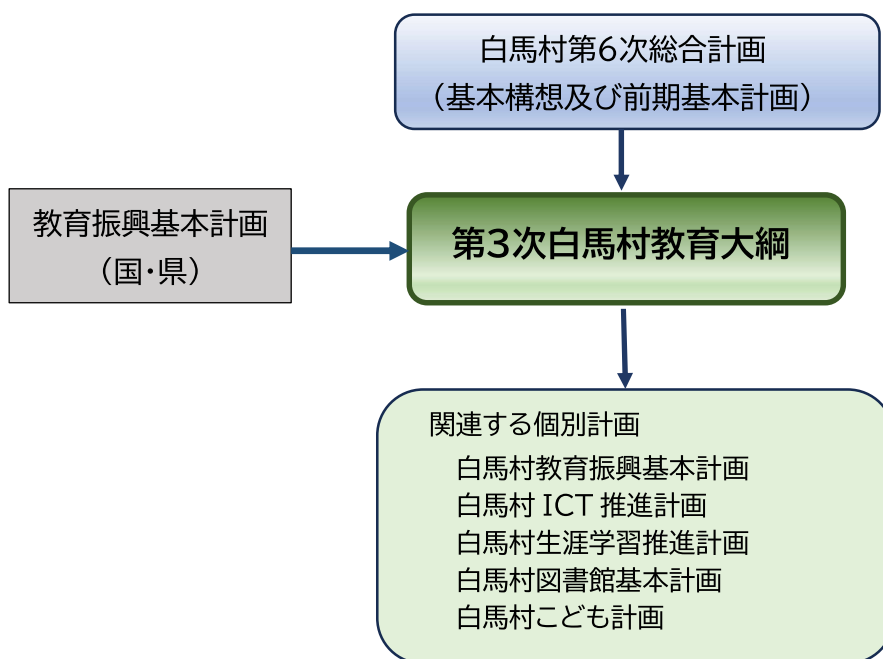
白馬村第6次総合計画 基本構想(4つの基本目標)

しぜん	<p>自然と共に生き、自然の豊かさを育む</p> <p>豊かな自然環境と唯一無二の白馬村の景観を次世代に受け継ぐためにも、今あるものは守り、失われたものは再生・回復し、豊かで美しい白馬村を育みます。</p> <p>気候変動対策として脱炭素社会を実現するとともに、生物多様性の回復、水資源の保全、廃棄物を出さない資源循環等を推進し、「自然と共に生き、自然の豊かさを育む村」を目指します。</p>
ひと	<p>人と共に生き、心の豊かさを育む</p> <p>子どもたちの夢を育み、若者が挑戦し、高齢者も生きがいを持って暮らせるよう、村民の主體的な活動を支援しながら、子育て・教育・福祉の充実を図ります。</p> <p>地域の担い手確保や教育環境の充実、持続的・安定的な地域経営のためにも、若者や女性に選ばれる地域づくりに取り組みます。</p> <p>地域の歴史・文化を尊重する意識を育み、遊びや学びを通じて多様な人々が交流し、お互いに認めあい学びあうことで、「人と共に生き、心の豊かさを育む村」を目指します。</p>
まち	<p>安心して快適に暮らし、社会的な豊かさを育む</p> <p>社会基盤・生活基盤を適切に維持・更新するとともに、防災・減災の取り組みを推進するとともに、定住を望む人が地域で暮らし続けられるよう、住環境の整備等に取り組みます。</p> <p>デジタル技術の活用や公共交通の充実により、利便性や住みやすさを確保し、「安心して快適に暮らし、社会的な豊かさを育む村」を目指します。</p>
しごと	<p>地域資源を活かし、経済的な豊かさを育む</p> <p>関係団体や事業者と連携し、需要の平準化による通年雇用の確保や人手不足の解消を図り、質の高い観光サービスの提供や多面的機能を有する農林業の活性化に取り組みます。</p> <p>新たな産業創出や事業承継を推進し、安定した雇用を創出することで定住を促進し、地域内循環を高め、「地域資源を活かし、経済的な豊かさを育む村」を目指します。</p>

第3次白馬村教育大綱が目指す部分

本村の教育委員会が所管する諸施策におきましては、このうち2つの基本目標に関連し、村づくりを進めるうえで重要な役割を担っています。

このことから、教育大綱の構成としては、総合計画基本構想の基本理念を大綱の基本理念としても位置づけ、併せて、総合計画基本構想の基本目標を達成するための教育委員会に関する個別目標を、大綱の基本方針として定めるものです。



4 大綱の計画期間

上位計画である白馬村第6次総合計画基本構想及び前期基本計画に合わせ、2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間とします。

年度(令和)	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
総合計画	白馬村第6次総合計画 基本構想(10年間)									
	前期基本計画(5年間)					後期基本計画(5年間)				
教育大綱	第3次教育大綱(5年間)									

第2章 基本理念

1 第6次総合計画基本理念

共に生き 豊かさを育む

支え合いと幸せがめぐる –Best Living Village–

第6次総合計画基本構想の基本理念では、「共に生き 豊かさを育む」として、「豊かさを育む」ことを理念に掲げ、自然の豊かさ、心の豊かさ、社会的な豊かさ、経済的な豊かさなど、それぞれの豊かさを育んでいくことを行動指針として定めています。

また、「支え合いと幸せがめぐる –Best Living Village–」を将来像の理念として、観光振興により地域住民の暮らしが豊かになる地域を実現し、「Best Tourism Village」と「Best Living Village」の両立を目指しています。

2 本大綱の基本理念

ともに生き ともに学び 生きる力を育む

総合計画の基本理念では、白馬村において国内外からの移住者や季節労働者が増加し、「村民の多様性」が新たな特徴となりつつある一方、価値観の多様化により地域の絆の希薄化や伝統文化の継承が難しくなっている状況が示されています。

そのうえで、異なる価値観や文化をもつ人々が互いに理解し尊重し合い、対話と学びを通して寛容性を育むこと、そして移住者・来訪者にも地域の歴史や文化の理解を促しながら、支え合い共に生きることで感謝と幸せが循環する村を目指すことが掲げられています。また、白馬村での暮らしを楽しみ、誰もが豊かに暮らし続けられる「Best Living Village」を実現し、「白馬に住み続けたい」「白馬に帰りたい」と思える人を増やすことを目標としています。

本大綱では、多様な人々を分け隔てなく受け入れ、互いに学び合うことで、豊かな人間関係を築き、予測の難しい時代を生き抜く力を養うことを目指します。

そして、一人ひとりが思いやりをもち、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を願い、郷土への誇りと多様性への敬意を育みながら、豊かな心と健やかな体を育てる教育・文化・芸術・スポーツのむらづくりを進めます。

温かく心のこもった教育を推進し、「白馬村に生まれ、住み続けてよかった」と思える人を育てることを、本大綱の基本理念とします。

第3章 基本方針と推進施策

基本理念を踏まえ、第6次総合計画の基本目標から「しぜん 自然と共に生き、自然の豊かさを育む」と「ひと 人と共に生き、心の豊かさを育む」が本大綱として目指す部分と捉え目標を達成するための基本方針として掲げます。

基本方針 1 自然と共に生き、自然の豊かさを育む

施策1 文化・芸術・自然環境

生涯にわたり学び、そして共に学び合う文化の醸成

生涯にわたり学べる体制づくりを進め、文化・芸術・歴史を通じて人や社会とのつながりを感じることができる機会を提供します。

1 学ぶ機会の充実

人生百年時代を見据えた生涯学習体制の構築に向け、教育関係団体等、多様な主体と連携・協働し、生涯学習の支援体制の充実を図ります。年代や多彩な属性等、村民が生涯を通じて学び続けられるよう、学習活動のニーズに応える取組を進めるとともに、人とのつながり、社会とのつながりを感じることができる機会を提供します。

2 文化・芸術の振興

本物の芸術に触れる機会は、村民の生活の質の向上に直結します。ウイング21の文化ホールを中心に文化芸術に触れる機会を提供します。

3 文化の伝承

村には数多くの文化財や伝統文化が残されています。これら文化財や伝統文化に触れる機会を提供し、関係人口を増やすことで着実に次世代へ継承し、地域振興と活性化に繋がります。

4 自然環境保護

今あるものは守り、失われたものは再生・回復に努め、里山・森林・川に住む多様な生命（動物・植物）が共生し、生きるのに必要な物質が最適に循環する生態系が育まれる地域を目指し、人材を育成します。

基本方針 2 人と共に生き、心の豊かさを育む

施策1 学校教育

学校教育の充実を図り、生きる力を育む

学校教育においては、多様化しているこれからの社会を生きるために心の豊かさを育むことと、多くの時間を過ごす学校施設の整備充実を計画的に推進します。

1 確かな学びと心の豊かさを育む教育の充実

小中学校の連携を強化し、学力向上対策委員会における横断的・具体的な検討を行い、教員の資質・指導力を向上させ、確かな学力の向上を図るとともに、主体的で対話的な学びを充実させます。

2 地域の教育機能の活用及び自立と共生のインクルーシブ教育^{※1}の充実

保護者や住民の学校運営への参画を進めます。英語力を含めたコミュニケーション能力の向上や郷土の魅力を知るための地域学習など各学校の取り組みを支援します。

また、個々の多様性を尊重し、一人ひとりに寄り添った個別最適な学びや支援などの充実を図ります。

3 安全・安心で充実した教育環境の整備

整備を続けてきた ICT 教育環境を今以上に活用し、教員の勤務適正化を推進します。学校施設は計画的に設備更新等を進め安全を確保するとともに、学校の適正規模及び適正配置、施設等の整備についても計画的に推進します。

4 地域を担う人材の育成

白馬高校への支援を通じて、国際山岳観光地である本村を担う人材の育成を目指します。

5 食育を通じた生活環境の充実

学校給食への地場産物の安定供給及び有機農産物を活用する取り組みを行うとともに、生産者との交流や農業収穫体験を通じ、地域の特色や農産物への理解・関心を深め、心身ともに健康で質の高い生活を送れるための基盤づくりに取り組みます。

※1 インクルーシブ教育とは、障害の有無、国籍、性別などに関わらず、すべての子どもが分け隔てなく、共に学ぶ教育をいいます。

施策2 生涯スポーツ

スポーツで「未来を創り」「夢育む」豊かな地域づくり

スポーツを通じ、健康で豊かな生活を送ることのできるほか、魅力と活力ある地域社会の実現を目指します。

1 生涯を通じたスポーツの機会の充実

体力、年齢、性別、適性、健康状態等に応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことにより、ウェルビーイングの向上が図られるよう、スポーツを楽しむ機会の創出・提供やスポーツ活動を行いやすい環境の整備等を行います。

2 スポーツコミュニティの活性化による住みやすい地域づくり

スポーツを「する」だけでなく、「見る」「支える」ことでスポーツへの参画人口の拡大と定着化を進めます。スポーツを通じた交流の拡大により、地域コミュニティの核としての役割を造成します。

3 全国や世界で活躍する選手の育成

競技を行うためのハード面の整備はもとより、指導者の確保や指導力の向上を図ります。また、競技者が将来的に次世代の選手育成を担うことのできる好循環の形成を目指します。

4 オリンピック競技施設をはじめとする体育施設の利活用

機能を維持し選手育成に寄与するほか、多世代が交流を通じてスポーツに親しむことのできる環境整備と白馬ならではの地域特性を活かしたスポーツの推進を図ります。

施策3 幼児教育

白馬の自然環境を生かし、心の豊かさを育む幼児教育の推進

白馬村の豊かな自然や多様な人々、地域文化は、幼児期の学びと成長を支える貴重な教育資源です。人格形成の基盤が育つこの時期に、「共に生き、豊かさを育む」の理念のもと、子どもの主体性を大切に、自然や人とのつながりを実感しながら安心して成長できる幼児教育を推進します。

1 白馬の自然と共に育つ幼児教育の充実

雪・山・川・四季の移ろいなど白馬ならではの自然を年間保育に位置づけ、自然体験を通して子どもの好奇心や探究心を育む「やま保育」を推進します。あわせて、生きものや水・季節のめぐりに触れる体験を取り入れ、自然への気づきと大切にする心を育てます。

2 多様性に関われ共に育ち合う幼児教育の展開

多様な文化的背景をもつ園児・家庭への支援体制を維持・強化しつつ、絵本・音楽・遊びなどに多文化的な視点を取り入れ、異なる文化や価値観を自然に受け入れられる環境を整えます。また、保護者同士のつながりを支え、情報提供を充実させることで、子育てを支え合える環境づくりを進めます。

3 地域とつながり支え合う幼児教育の推進

地域の方々に園の活動へ参加していただく「地域参画型幼児教育」を進め、伝統行事や文化、雪国の暮らしを体験できる機会を年間計画に取り入れます。あわせて、保幼小の連携を深め、入学への不安を和らげながら、円滑な移行を支えます。